

OKAYAMA Inclusive Festival 想像は、しあわせの

蜂谷工業 presents

おかやま インタラクティブ フェスティバル 2026

魔法



報告書

Imagination, the magic of happiness.

©Miyu Tabei/Esoblock. the next town. is an industrial city where people are controlled.

<https://okayama-inclusivefes.com/>



生きる喜びと痛みをともに称え合う、 年に一度のみんなの晴れ舞台。

「おやまインクルーシブフェスティバル」は“生きる喜びと痛みをともに称え合う”ことをコンセプトに2024年からスタートした取り組みです。

このフェスティバルをつくるのは、障がいのある人もない人も、子どももお年寄りも、留学生など国籍もさまざまな人を含む、地域に暮らすすべての人々です。だれもが表現者であり、観客であり、街の主役。舞台と観客の垣根をなくし、日常のなかに非日常の彩りを溶け込ませることで、「インクルーシブ＝包みこむ社会」の実現をめざします。

日本には、さまざまな障がいや生きづらさを抱えながら、日々を丁寧に生きている人たちがたくさんいます。その人たちが紡ぐ言葉や音、描く色やかたちは、私たちの世界を豊かにしてくれる、かけがえのないものです。

けれど、私たちはその豊かさに、本当に気づけているでしょうか。「ふつう」や「常識」といった見えないフィルターが、思いがけない感動との出会いを遠ざけてしまっていないでしょうか。

そしてもう一方で、多様な表現の力を持つアーティストたちがその魅力を十分に発信できる場も、まだ限られているのではないのでしょうか。

このフェスティバルは、そんな問いにも気づける場所でありたいと考えています。

街に表現があふれ、人々のまなざしが交差するその瞬間に、「出会い」と「対話」が生まれます。歌・ダンス・絵画・音楽・言葉で、お互いの違いを楽しみ、認め合い、生きる喜びと痛みをともに称えあう。出る人にとっても観る人にとっても、年に一度のみんなの晴れ舞台。

このフェスティバルは、岡山のまちに生まれる新たな風景であり、次世代に伝えるレガシーです。すべての人が尊重され、自分らしく輝ける未来へ。その一歩を、ここ岡山から踏み出します。

ミッション Mission

“生きる喜びと痛みをともに称えあおう”という合言葉のもと、多様な人々が互いの違いや表現にふれ、認め合い、つながることで、インクルーシブな地域社会を育む。

アート展示や実演芸術を岡山駅周辺(半径1km圏内)に展開し、様々な人・ジャンルの“晴れ舞台”をつくる。メイン事業日には晴れ舞台にあがる人を中心とした関係者が同じ空間に集うことで、分野や立場を越えて交差するフェスティバルを実現する。

しあわせの魔法

想像は、しあわせの魔法。

Imagination, the magic of happiness.

想像し表現することは、誰もがつかえる魔法です。

そのひとつひとつが、見る人の心を動かし、

街を明るくし、人と人をつないでいく。

アート、音楽、パフォーマンス、表現が街にあふれ、

人々のまなざしが交差するその瞬間に「出会い」と「対話」が生まれます。

このフェスティバルを通じて生まれる感動が、社会をどれほど豊かにするでしょう。

街をやさしさで満たしてくれる、

しあわせの魔法は、わたしたちの心の中に。

会期

2026年2月1日(日)～2月15日(日)

メイン事業日

2026年2月11日(水・祝)

プログラム内容

- ・特別公演・演劇「人生相談天国」 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 小劇場
- ・おやまインクルーシブアワード2026「魔法の森のアワードパーティー」 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場
- ・マルシェ「The World Kitchen & こども商店街」 表町商店街 千日前ハレノワ通り
- ・アート展示「まちなかアートギャラリー」 市内各所
- ・催し「はればれステージ」 市内各所



特別公演・演劇「人生相談天国」



おやまインクルーシブアワード2026「魔法の森のアワードパーティー」



マルシェ「The World Kitchen & こども商店街」



アート展示「まちなかアートギャラリー」



催し「はればれステージ」

表彰式「魔法の森のアワードパーティー」

岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場 13:00～15:40 (開場 12:30) 入場無料

[鑑賞サポート] 車椅子席・手話通訳・補助犬対応・筆談対応・子ども用イヤーマフ貸出・提携託児サービス

入場者 530名

総登壇者数 145名

構成・演出 角ひろみ

司会 大西千夏

振付 北村成美

音楽 岩本象一

受賞者 23名(創作部門11名、アート部門12名)
審査員 9名(創作部門4名、アート部門5名)
スポンサー企業 10名
パフォーマンス部門出場団体 82名
(IPU・環太平洋大学ダンス部30名、おかみよんず20名、
つきのこぐま2名、すわるばキッズ5名、伊予銀行合唱団25名)
はれぶ隊 12名
その他関係者 9名



振付 北村成美 司会 大西千夏 音楽 岩本象一



舞台上に出演者、受賞者、審査員など145名が集った

市民から公募したアートや作文、パフォーマンスを表彰する演劇形式の表彰式。テーマは「しあわせの魔法」。個性あふれるたくさんの作品の中から選ばれた受賞者と、豪華な審査員が登場します。まるで演劇のように心ときめく特別な表彰式。お気に入りの装いで、どなたでもお気軽にご参加いただけます。」(当日プログラムより)と呼びかけました。

第1部 パフォーマンス部門公開審査

「公募によって全国から集まった多彩なパフォーマンスの中から、厳正な審査を経て選ばれた5組による最終決戦のステージです。ダンス、音楽、身体表現など、ジャンルを超えて披露され、最終審査の場となります。審査の決め手となるのは、会場にいる観客の投票。見事選ばれたパフォーマーが、グランプリとなります。しあわせの魔法にかかり心を動かされた表現にあなたの一票をお寄せください。」(当日プログラムより)



FLY AWAY!〜ほぐらの青春、時々音楽〜

おかみよんず

歌い楽しむ人 演奏を楽しむ人
真剣に演奏する人 音楽を楽しむバンド

岡山支援学校寄宿舎の生徒と職員で構成された音楽バンドです。寄宿舎のイベントごとに様々な曲に挑戦し披露してきました。仲間とともに夢に向かって羽ばたいています。

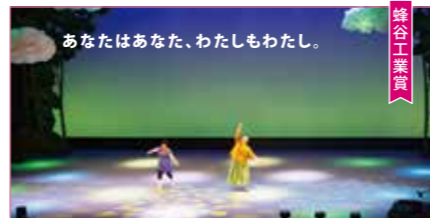


鬼ノ城一魄の鼓動一

IPU・環太平洋大学ダンス部

誰もが尊重される世界を祈り
温羅伝説を踊る

2015年4月創部。国際大会に日本代表として派遣され、JAPAN CUP日本選手権大会など優勝を果たしています。地元岡山を題材に創作ダンスに挑戦し続けています。



あなたはあなた、わたしもわたし。

つきのこぐま

音楽の拍に縛られない身体から
沸き起こる踊り

鳥取市で活動する同世代の女性2人のダンスユニット。それぞれが得意なことを活かしながら、二人でアイデアを出し合い作品を創っています。



ジブリ映画音楽より

伊予銀行合唱団

振付などの演出はなく
歌声のみで勝負する正統派のコーラス

伊予銀行合唱団は、職場合唱団として創立し58年目を迎えました。現役行員に加え、引退したOB・OGも参加し、30代から90代まで幅広い世代で活動しています。



太陽をよんだ鬼

すわるばキッズ

大きくなったり小さくなったりする
迫力の影絵

2021年、影絵師の諏訪裕美と身体表現家のケンジルピエンを中心に発足。親と子、地域の人々が繋がる場所、芸術を身近に感じ、楽しく過ごせる場所として活動中です。



観客投票

グランプリは会場の観客の投票によって決定しました。

第2部 魔法の森のアワードパーティー

～アート・創作作文・パフォーマンス部門授賞式～

アート作品応募総数 163 点は、審査員を大いに悩ませるほど力強く、魅力あふれる作品ばかりでした。多角的に審査を実施し、15 点の入選作品が選出されました。作文・創作物語部門は「しあわせの魔法」をテーマに募集し、小中学生が綴った想いのこもった作品が 33 点寄せられ、審査の結果 12 点の入選作品が選出されました。パフォーマンス部門は応募があった 18 団体から 5 団体が最終選考に通過し、観客投票によりグランプリをはじめ各賞が選ばれました。



表現の現場で生まれたこと 角ひろみ(劇作家・演出家)

「しあわせの魔法、をインクルーシブアワードのテーマに、誰も見たことない演劇表彰式を」という実行委員長の起案から創造的だった。物語や設定ひとつで、出来事は格段に輝きを増して感じられる。演劇的魔法がかかる。そうして、魔法姉妹がみんなと芸術の賞を選び祝う『魔法の森のアワードパーティー』の台本を書き演じた。

中劇場に大きな森が出現し、子供達がワークショップで創った素敵な雲が浮かんだ。始終、客席の電灯を暗くせず、途中入退場自由にした。怖くない優しい森にしたかった。

物語溢れる衣装して来てくれた人が大勢いて賑わいを増した。手話通訳者はその場で起きていることを大事に伝えてくれた。ボランティア応募の「はれぶ隊」は 10 代も多く、双子妖精まみみほちゃんと共に、開演挨拶やダンスや様々な手伝いを担って、キラキラと躍動していた。パフォーマンス部門最終 5 組は、表現方法も勝負所も見事に違って多彩だった。それぞれ独自で豊かで見ええがあった。一枚の花びらを投じる観客投票は、どこを選ぶか悩みつつも楽しんで行われた。

授賞式は、レッドカーペットのように全員がパレードで登場した。受賞者も審査員も協賛企業の皆様も、笑顔で舞台上がってくれた。アート、作文創作物語、パフォーマンスの数多くの賞があり、小学生から大人まで、続々と登壇する受賞者の表情の輝きが何より感動的だった。

それを讃える客席からの拍手とかけ声が温かった。最初と最後は、テーマソング「オーしあわせ」を、魔法使い妹のダンサーしげやんの振付レクチャーのもと、魔法使い姉の司会チカさんの歌と、さすらいの吟遊詩人岩本さんの生ドラムで、舞台・客席のみんなが歌い踊り、魔法の呪文「クルクルハッピー♪」を唱え、盛り上げてくれた。お客様もコンテスト出場者も授賞式登壇者もプロの出演者もスタッフも、子供大人障害のあるなし性別に関わらず、それぞれの特技や特性やアイデアやユーモアや愛を持ち寄って、魔法のパーティーの登場人物としてノッて存在してくれて、楽しんだ。インクルーシブとはこういう大きな森のことなのでと実感する。しあわせの出会いが生まれた。

兵庫県尼崎市出身。宝塚北高校演劇科卒業。1995年「芝居屋坂道ストア」結成。数々の演劇祭に招聘され活動。2005年同劇団解散。2006年より岡山市在住。東京や関西や岡山など各地の団体や劇場に劇作家・演出家として多数関わる。WS 講師や審査員等も多数歴任。兵庫県立宝塚北高校演劇科 劇作講師。



角ひろみ(中央)。当日は、魔法使い妹・北村成美(しげやん)と、魔法使い姉・大西千夏(チカさん)と共に、華やかな衣装で舞台を楽しんだ。

出演者の声

- ・自分たちの名前が呼ばれた瞬間、驚きと喜びにあふれた。
- ・「最高の思い出になった!」。感動して涙がでた。
- ・昨年の9月に応募した作品の入選を知り授賞式当日まで歓喜の日々を送っていた。
- ・放課後等デイサービスの子どもたちにも表彰式の動画を見せています。他の子たちも「来年は自分も!」と、意気込んでいます。
- ・これからもいろいろなことに自由に挑戦していきたい。

観客の声

- ・表彰式がぶっとんでいる!こんな作り込んだ表彰式見たことない。
- ・ステージの上で一息懸命頑張っている姿に何度も涙を流した。
- ・観客席に座っていた受賞者のご家族も喜ばれていた。好きなことをやっている人、誰かが喜んでる姿を見ると幸せになることを知った。
- ・公的資金を原資としない革新的なインクルーシブイベント。今後のインクルーシブなイベントやアール・ブリュット展のモデルケースとなる貴重な試みではないか。

アート部門入選作品



審査員特別賞 平子雄一
くさり、ぐさり。 かなつべ
わかれみち、どっち?先についてしまった、かたほうしかない?
くさりをして、とばないように、みうしわないように、あしあと
をつける、いっぽずつ、少しづつ。



審査員特別賞 平子雄一
ふるさとのおかあさんの赤ちゃん 国森 たつろう
家の中のキッチン、やかんの湯気が出ている中は、はくしよんの
魔法で変身してほしい。湯気が手になってほしい。
そんな楽しいことができたらあわせてだな。



審査員特別賞 HARUMARU♡
年老的愛犬と私 天極 ララ
大病をしてのりこえてくれた愛する犬と暮らしています。愛犬はまゆ
げも白くなり、白髪がふえました。このときはまだおそらく元気がなか
ったころの絵かもいれません。海に行き、2人でかおをあわせて笑っ
ていました。10代の時から私を支え、引っぱってきてくれた犬です。



審査員特別賞 片山康之
おこづかい帳 川田 花菜
週1回のお買物の日を楽しんでたまりません。お給料の一部
を自分で紙で作った封筒に仕分けをして、その日に買うリス
トをかきことが日課。リストをヘルパーさんと確認をしてお金
の計算はおついで買い物ができるとはならず、ひき算を
書いて示しているようです。買うものは殆ど食べ物。今や
100K越えです。買い物は彼女にとって夢であると言います。
このノートに込められた夢はどんなことなのでしょう。



審査員特別賞 金孝妍
明日がくる幸せ 美玲奈
私たちは、生きているけれどなんさいまで生きれるかわからな
い、私たちの世界の明日がくる幸せにしました。



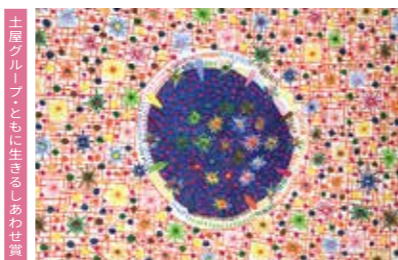
審査員特別賞 大平由香理
はばたけチョウチョたち 橋本 賢二
芋虫のような形からはなやかな色になり、ちょうが飛び立ってい
くようになるまで、しあわせのまほうにかかっているようだ。



審査員特別賞 結芽と斗嵐の夢 KAITO
ネットイミノカサゴの結芽さんとグリーンイグアナの斗嵐くん
それぞれがあこがれて夢にみている世界をイメージして描い
てみました。



岡山トヨタ・めちやスマイル賞
目には見えない力 やまざき
この絵は様々な色を使い人種・年齢・性別・価値観など多様な
この世界を表現しました。そんなこの世界には天使のような目には
見えない存在がいて、私たちをサポートしてくれているのでは
とも思い、絵を描いていきました。また私たちが自身も思いやりや愛
の気持ちなど、目には見えないもので身の回りや世界を幸せに
できる力を持っているとも思い、天使とも私たちが自身ともとれるよ
うな絵にしました。



土曜グループ・めちやスマイル賞
ほし〜星に願いをこめて〜 KOCHAN
世界中のみんなが幸せになれるように...



岡山トヨタ・めちやスマイル賞
ハレの魔法 Rie
「しあわせ」ってなんだろうと考えた時、私は笑顔でいられる
時だと思えます。この絵には心が雨の日でも晴れた雲の上へ
行ける様な、優しさでここにできるメルヘンな魔法を込めま
した。どんな人でもいつ笑顔でいられますように。



岡山トヨタ・めちやスマイル賞
おまめ警察〜はらべこ隊〜 水野 カスミン
おまめが警察官になったらとわくわくしながら描きました。



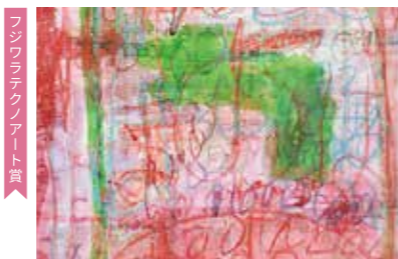
ワウラナーエム賞
おもしろい なおえうた



ハルク賞
ミライパレード さくらゆき
小さな生き物たちが、ウキウキワクワクしながら、未来へ行進
しています。「しあわせの魔法」は、みんなと一しょに進むこ
と。みんながそばにいて、みんなでニコニコと笑ってられる
こと。みんなを包み込むような、やさしい未来を思い浮かべ
ながら、描きました



ホンダラジオコム賞
いつもの日常を魔法に変えて ナマケモノデス
私にとっての幸せの魔法は「町を描く」ことです。町の見所、人々
の喜び、それを描いている内に自分自身もその絵の中にある気
分になり心が満たされます。今月、倉敷に住んで15年ほどにな
り、住み慣れたこの町に対する思いや魅力を伝えようと思ひ倉敷
を描くことにしました。描いている間、倉敷での思い出などを見つ
めてきて、増々、自分はこの町が好きなんだと実感しました。



フジワラテクノアート賞
かお 和田 健
「かお」と言ってモチーフは同じですが、形や数字ひらがなが書
けるようになって喜びいさんで言葉のようなものも表現するよう
になりました。

アート部門審査員

平子 雄一 (現代美術作家)



岡山県生まれ、東京を拠点に活動。植物や自然と人間の共存について、また、その関係性の中で浮上する曖昧さや疑問をテーマに制作を行う。

片山 康之 (美術作家)



静謐な表現の人物彫刻を得意としながら立体から平面まで様々な技法で作品を制作し、国内外の企画展などでの発表を続けている。

金 孝妍 (美術作家)



韓国生まれ。岡山在住。仏への留学を機に異なる文化環境の中で自身の東洋的な感覚を鮮烈に意識し、それが身体の動きや素材との関係性にも深く作用。

大平由香理 (美術作家)



日本画の画材と技法を用いて自身が出会った風景を描く。各地で滞在制作を行い、その土地で出会った光景や事象を元に作品制作を続けている。

HARUMARU♡ (洋画家・漫画家)



岡山市生まれ。宮下プロダクションに入社するも5カ月で退社。その後独学で漫画家を目指す。1983年漫画家デビュー。ジャンプ本紙に連載、単行本4巻を発行。

作文・創作部門入選作品

👑 グランプリ 小学1〜3年生の部

『わたしのあさがおとしあわせのまほう』
わたしは、きょうしつにいくのがすこしにがてです。ひとがたくさいると、きんちょうして、なかにはいるのがこわくなる時があります。でも、あさがおにみずをあげるじかんは、しずかで、わたしのたのしいじかんでした。(続く)

👑 角ひろみ賞

『楽しい書店』
ある日、森にすむ、くまの子は、ニンジン畑にすむ、うさぎの子といっしょに本をよんでいました。二人は本が大好きでした。次の日、くまの子は、一人でさんぽに行くことにしました。(続く)

👑 蜂谷工業賞

『笑うまほう』
わたしは笑うのが大好きです。けれど、一番幸せでうれしいのは、パパが笑うことです。例えばわたしが笑うと、パパもつられて笑います。その時に、妹もつられて笑います。(続く)

👑 優秀賞 小学1〜3年生の部

『先生のしょうぎ』
ぼくのクラスには、古いしょうぎセットがあります。しょうぎばんには小さなきずがなくて、こまは少し色がかっていません、けれど、どちらかすべすべしててさらり心地がいいです。(続く)

👑 天川栄人賞

『もふもふさんがそこにいる』
わが家には「もふもふさん」がいる。「ふごー、ふごー。」ちょうど今、お母さんのお膝の上で、雪のように真っ白で、とても小さな体をくるり、と丸めて、とても小さい口から、(続く)

👑 岡山トヨタ自動車・めちやスマイル賞

『万博で知ったインクルーシブ』
夏休みに、家族と一緒に大阪・関西万博に行きました。会場には、世界中の国が参加していて、それぞれの国の文化や技術を紹介するパビリオンがたくさん並んでいました。(続く)

一部抜粋してご紹介します。(全文はHPに掲載しています)

👑 優秀賞 小学4〜6年生の部

『幸せの魔法』
特に変わらない生活を送っている私だが、私は少し変わっているらしい。食べ物の好ききらいが多かったり、気が散ったり、自分の思い通りにならないと気がすまなかつたりして、お母さんとよくケンカをする。だから、私は魔法使いにあこがれてしまう。(続く)

👑 高見京子賞

『唯一人』
あなたはオタクですか?こう聞くと、そうだという人やそうではないという人がいると思います。最近ではOOオタク、OO推しという言葉をよく聞くようになりました。(続く)

👑 土屋グループ・ともに生きるしあわせ賞

『友達のあかし』
ある小さな村に、女の子がいました。女の子の名前は心(こころ)海(み)といいました。心海は木や草花が大好きで、いつも話しかけていました。(続く)

👑 優秀賞 中学生の部

『150円の』
はあ、と溜息を吐くと目の前がうっすら白くなる。もうそんな季節になってしまったのか。冬は嫌いだ。手が痺むから。動きづらい指をギシギシと、握って開いてを繰り返しているうちに、信号が赤になる。(続く)

👑 横田かおり賞

『幸せの魔法』
ぼくが「しあわせだな」と思う時は、畑で野菜を育てるときです。(中略)実がついて赤くなったトマトや大きなカボチャを見つけたときは、心の中でガッツポーズをしています。(続く)

👑 株式会社マスコット薬局賞

『しあわせのまほう』
ぼくには、大きなことがいくつもありました。そのときの気もちがとっても楽しくて、心がポカポカするので、まるでしあわせのまほうみたいだなと思います。まず、ねることです。(続く)

作文・創作部門審査員

角 ひろみ (劇作家・演出家)



尼崎市出身。岡山市在住。東京や関西や岡山など各地の団体や劇場に劇作家・演出家として多数関わる。WS講師や審査員等も多数歴任。

天川 栄人 (小説家)



岡山市出身。『ノベルダムと本の虫』(角川書店)で第13回角川ビーンズ小説大賞審査員特別賞を受賞し、デビュー。現在は、YAを中心に活動中。

高見 京子 (全国SLA学校図書館スーパーバイザー)



38年間、高等学校国語科教諭、司書教諭などを務め、2011年度、読書感想文全国読書推進大賞を受賞。退職後、講演や、読書感想文審査などを行っている。

横田 かおり (書店員)



岡山県生まれ。本の森セルバ岡山店勤務。文学創造都市おかやま発ちいさな物語マガジン「うたて」市民ライター。「おかやま文学フェスティバル」実行委員。

舞台「人生相談天国」 その悩み、ちょっとお借りします

舞台「人生相談天国」では、演劇経験の有無を問わずオーディションによって選出された23名が出演した。参加者は、ワークショップ形式の稽古を重ねながら作品創作に取り組み、そのプロセスを経て本番公演を迎えた。

入場者 **300**名 (公開ゲネプロを含む)

岡山芸術創造劇場 ハレノワ 小劇場

【日時】2026年2月11日 17:00~(開場16:30)

【チケット】一般 ¥2,000 高校生以下 ¥500 *3歳以下入場不可

【鑑賞サポート】車椅子席 手話通訳 補助犬対応 筆談対応
子ども用イヤーマフ貸出 提携託児サービス

構成・演出：菅原直樹(「老いと演劇」OiBokkeShi主宰)

出演：有安由香梨 赤田貞治 石垣のぼる 伊澤尚美 尾島卓
岡崎研太郎 かねこひろこ 木村映理香 小西早苗
Singing HIYOKO 杉本愛 厨子福恵 鈴木華林 仲田多花枝
長濱洋子 延本美作子 本間梅香 舞桜 南奈緒
もみの志郎 森田亜紀 村上英子 村上遥 矢飼恵美子

匿名で寄せられる、さまざまな人生相談。

舞台には、国籍も年齢も性別も異なる人々が集まってくる。

ただし、ここには“回答者、はいない。

舞台では、誰かの悩みに心を動かされた人が、

その人生相談をもとに仲間を募り、即興でシーンを演じていく。

演じることで、悩みの解決の糸口が見つかるかもしれないし、

逆に、悩みがもっと深まってしまうことも…。

他者の役を借りて、自分自身を問い直す。

見ず知らずの誰かの人生が、私たち自身の物語となり、

リハーサルを重ねながら、答えのない結末へたどりつく。

演じるとは何か？ 生きるとは何か？ 人生とは何か？

現代社会を映し出す、あらたな演劇プログラムの幕が上がる。

(当日プログラムより)



ワークショップの様子



演出家・菅原氏(中央下)と、オーディションで集まった個性豊かな出演者たち。ワークショップを通じて響き合った個性が一つになり、最高の笑顔で本番の幕開けを迎えた。

スタッフ

【サポートアーティスト】有安 由香梨

【照明】青井 史子 (オールライツ)

【音響】家野 裕子 (株式会社アンダートーン)

【舞台美術】田沢(深谷) 千草

【音楽】Betts (JP)

【舞台監督】田和 伸二

【宣伝美術】久延 フミカ (ヒラガナ企画合同会社)

【宣伝イラスト】あさの のい

【制作アドバイザー】武田 知也 (一般社団法人ベンチ代表理事)

【助成】  公益財団法人
福岡教育文化振興財団



表現の現場で生まれたこと

菅原直樹(劇作家、演出家、俳優、介護福祉士 「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰)

「老いと演劇」の活動を続けていく中で、生活者こそがベテラン俳優なのだという実感がありました。その実感を作品づくりに生かしたいと考え、『人生相談天国』の構想を練りました。オーディションから公演前のリハーサルに至るまで、稽古場では数々の創造の瞬間に立ち会うことができ、とても充実した時間でした。誰かの悩みを出演者が演じるときの切実さ、そしてその悩みに真摯に向き合う姿勢は、強く胸に迫るものでした。構想の段階では想像にすぎなかったものが、稽古場で出演者の皆さんの演技に触れることで、確信へと変わっていきました。悩みという形式はすべての人に共通するものであり、その向き合い方には、それぞれの個性や人生経験が色濃く表れるのです。台本には、私が書いた部分と即興による部分があります。私にとっても大きな挑戦でしたが、出演者・スタッフの皆さんの力に支えられ、楽しみながら創作することができました。人は誰しも悩みを抱えています。この作品をつくっている期間、私自身も大きな悩みに直面していました。しかし稽古場で、誰かの悩みを自分ごととして演じる出演者の皆さんの姿に触れる中で、自分の姿と共鳴し、強張っていた身体がほどけていくような感覚

を覚えました。

出演者の皆さんとともに、悩みを題材にした新たな演劇の扉を開くことができたのではないかと感じています。岡山で生まれたこの演劇を、これからも皆さんとともに育て、広げていけたらと思っています。

1983年栃木県宇都宮出身。桜美林大学文学部総合文化科学卒。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2014年に岡山県で「老いと演劇」OiBokkeShiを設立し、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。三重県文化会館「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトなど、劇団外でのプロジェクト、招聘公演も多数実施している。近作に、ハレノワ創造プログラム松井周×菅原直樹『終点まざゆめ』(演出協力・出演)など。平成30年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣賞新人賞(芸術振興部門)を受賞。



撮影：草加和輝

出演者の声

- ・台本には半分くらいしか台詞がなく、稽古の中で即興で作りに上げていく手法は大きな挑戦だった。みんなで作り上げていく貴重な経験ができた。
- ・生活者としての私たちの人生経験が誰かの役に立つのだと思った。ひとりひとりの人間性が芝居の役で活かすことができた。
- ・ずっとやってみたかった演劇、生まれて初めて挑戦をした。
- ・菅原さんは稽古で「いいですね！」をたくさん言ってくれる。この言葉から、今しかない瞬間を楽しみたいという想いが伝わってきて、自分自身も今の瞬間や今出会っている人を大切にしたいと思った。

観客の声

- ・他人の悩みを聞くことで自分の姿を見るかもしれない。「人の悩み」は全員に共通する人生の最大テーマ。
- ・これは演じているのか？と思うような不思議な舞台でした。出演者の経験からにじみ出るものだったので、身につまされるものがありました。こんなお芝居もあるのか。
- ・人生相談天国、久しぶりに大号泣した。
- ・自分にも同じ悩みや経験があり、自分自身と重なった。
- ・「インクルーシブ」という名のもとに、誰かが誰かを包摂しているイベントではない。誰かの得意と誰かの得意が自然に集まり、輝き合い、人を元気にしているイベントなのではないか。



「街なかアートギャラリー」 & 「JTBスタンプラリー」

一歩く。見る。感じる。集める。その一歩一歩が、人と想いをつなげていきます。

共通コンセプト「しあわせの魔法」をテーマに描かれたハンディキャップアーティストの作品163点（応募エリア16都府県）のレプリカを、岡山市の街なか各所に展示しました。QRコード経由でアート作品を購入でき、収益70%を作者本人に還元。同時開催のデジタルスタンプラリーでアートと街歩きを楽しめる取り組みを行いました。

全鑑賞者数 のべ4,000名（推計） スタンプラリー参加者 149名

作品購入申し込み状況 0件 参加施設 20ヶ所

岡山コンベンションセンター	イコットニコット	アジュードル
ANAクラウンプラザホテル岡山	TSUTAYA岡山駅前店	ありがとうファームギャラリー&カフェ
岡山駅一番街	クレド岡山	KOTYAE
ホテルグランヴィア	おかやまビューホテルレストラン『五感』	岡山芸術創造劇場ハレノワ3Fギャラリー
岡山駅南地下道	中国銀行岡山駅前支店	岡山県庁食堂
ビックカメラ岡山店	天満屋岡山本店	岡山トヨタ本店
		UNO HOTEL



はればれステージプログラム

「自分の作品や表現活動をたくさんの人に見てもらいたい方」

「アートを通じていろんな人と繋がりたい方」

「岡山をアートで盛り上げたい方」を公募し、独自プログラムを開催。

集客人数 のべ350名

<p>日時 2月1日 ⑧ 13:00～15:00 NOLTYスコラ わたしの手帳カバーコンテスト 真っ白なスコラ手帳を、1年間大切に使用したくなるステキな表紙にデザインしてください！ 会場 イコットニコット(4F) 料金 無料</p>	<p>日時 2月1日 ⑧ 13:00～15:30 岡山理科大学留学生別科 わたしたちの母国と日本での歩み 「知る」「話す」「遊ぶ」で世界をもっと身近に！ 留学生別科学習成果発表会 会場 イコットニコット4F 料金 無料</p>	<p>日時 2月1日 ⑧ 13:00～14:40 映画「ノルマル17歳。」 「わたしたちはADHD」 あの子のことか？自分のことか？発達生涯を映画から考える。上映後、アフタートークあり。 会場 KOTYAE 料金 1,000円</p>	<p>日時 2月2日 ⑨～2月12日 ⑩ オーエム機器 カムダウンスペース 聴覚過敏やパニック傾向の方々安心して外出できるためのスペース。 会場 さんすて岡山 南館1F(さち福やCafe前) 料金 無料</p>
<p>日時 2月2日 ⑨ 13:00～14:00 ありがとうファーム メンバー会 新春A-1グランプリ2026 河原名賞委員長杯。注目を集めるメンバーは誰だ？優勝賞品2,000万円をかけた闘いが始まる。 会場 ありがとうファーム ギャラリー&カフェ 料金 無料</p>	<p>日時 2月5日 ⑤、7日 ⑥、8日 ⑧ 17:00～18:00 古閑すまご・ケンシルビエン・大野公輔 他 舞踏公演「プレリュード～春の祭典と名付け得ぬものための」 会場 isen plus (天満屋 岡山本店6F) 料金 2,500円 高校生以上学生・障がい者 2,000円 中学生以下1000円 ワークショップ「舞踏の基礎」2月8日 ⑧ 14:00～16:00 料金 2,000円</p>	<p>日時 2月7日 ④ 11:00/8日 ④ 11:00/14:00 (上演時間約30～40分) 劇団アラホシ 演劇公演「昔の子どもたち」 生誕100周年となる安野光雅氏の絵本「昔の子どもたち」の演劇公演と、伝統遊びを使ったゲーム 会場 イコットニコット4F 料金 無料(投げ銭) ワークショップ「むかしあそびパルティ」 日時 2月7日 ④ 17:00/8日 ④ 13:00 会場 イコットニコット1F 料金 無料</p>	<p>日時 2月8日 ⑤ 13:00～15:00 北村成美(しげやん/ダンサー・振付家) 体験型ダンスパフォーマンス「しげとニコット」 通りすがりの方も会いに来て下さる方も、あなたにお贈りする街角パフォーマンスと贈りエクスサイスのひととき。心と身体がニコットとほぐれるダンスの魔力で「クルクルハビ」 会場 イコットニコット1F 料金 無料</p>
<p>日時 2月11日 ④ 16:30～17:30 春風亭昇吉・土肥ヨシ ユニバーサル落語 ～ユニバーサルデザイン落語絵本第二弾への挑戦～落語「トーション」3D絵本の発表 会場 ありがとうファームギャラリー&カフェ 料金 無料</p>	<p>日時 2月11日 ④ 18:30～ 人生相談天国アフタートーク 菅原直樹×長津 結一郎×渡辺弘 会場 ハレノワ小劇場 料金 無料 対象 人生相談天国をご覧いただいた方</p>	<p>日時 2月12日 ④ 9:00～ UNOHOTEL ユニバーサルツアー 瀬戸内の景色を楽しみながら、アートと対話を通して、誰もがつながれる一日をお届け。 ※スポンサー企業限定企画 会場 UNOHOTEL</p>	<p>日時 2月15日 ④ 13:00～ / 14:30～ 商職芳・温明儀 伝統音楽 南管演奏 台湾の音楽家来日。伝統楽器・琵琶による「南管」の演奏を通して、「しあわせの魔法」を感謝の心として届けます。 会場 KOTYAE</p>

タペストリート — 子どもたちの表現が、街を彩り街とつながる —

関連企画として、岡山県内特別支援学校11校を訪問し、のべ537名の生徒が「しあわせの魔法」をテーマに大型タペストリー作品制作を行いました。フェスティバル期間中の2026年2月1日～15日、表町商店街アーケードが「しあわせの魔法」タペストリートに変わりました。



タペストリー制作参加校 (順不同)
岡山県立岡山支援学校
岡山県立倉敷まきび支援学校
岡山県健康の森学園支援学校
岡山県立岡山東支援学校
岡山県立岡山南支援学校
岡山県立岡山西支援学校
岡山県立岡山豊学校
岡山県立岡山特別支援学校
倉敷市立倉敷支援学校

参加校教職員の声

- ・児童生徒が自由にのびのびと表現できたこと、無理なく参加できたことを高く評価したい。
- ・オンライン打ち合わせや事前連絡により、安心して参加できた。
- ・大きな画面での共同制作は普段できないダイナミック貴重な体験となった。
- ・いろいろな人との関わりや交流を通して、初めて見る多様な表現やつながりが生まれた。
- ・自分の作品が街に展示されることで、社会とのつながりや地域で生きている実感をもてた。
- ・肢体不自由の児童生徒が制作しやすいサポートがあり、安心して取り組めた。
- ・スタッフの関わりやコミュニケーションが、子どもたちの意欲向上に寄与。
- ・保護者からも好評で、教育的・社会的意義の高い活動として評価。
- ・スケジュールを早めにたて授業との調整をし鑑賞機会の確保をしたい。
- ・事前学習や施設見学などと組み合わせることで、学びの深化の可能性を広げたい。
- ・皆で何かを達成する(創る・目に見えるもの)というのが子どもたちに響くと思った。
- ・次回も参加を希望したい(参加校100%)。

商店街でのタペストリー鑑賞について教職員の声

- ・多くの教職員・保護者・生徒が見学 写真を撮って共有していた。
- ・商店街に並ぶ作品群は「社観」「庄巻」との評価。
- ・学校を越えた展示により、一体感や地域とのつながりが感じられた。
- ・展示後にタペストリーを寄付していただいたので現地に行けなかった生徒も作品で鑑賞できた。

マルシェ「The World Kitchen」 & 「こども商店街」

2026年2月11日（水・祝日） 10:00～17:00 集客人数 約750名

ハレノワと千日前ハレノワ通りで開催した、飲食・雑貨・ワークショップのマルシェイベント。

世界中の食を集めたイベント「The World Kitchen」（岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラムの学生を中心に主催している多文化交流フードイベント）と、「人にやさしく！こども商店街」のコラボマルシェを開催。NPO法人チャリティーサンタ経由で生活困窮家庭のご家族を無料で招待し、ともに楽しい思い出づくりをしました。



ワークショップ
命名まきちゃん
生活介護事業所 めかつくるとこ



ワークショップ
魔法のうち作り
アイデア実験室HUB Lab.



ワークショップ
福祉ネイル
一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会



ワークショップ
スノードームづくり
The World Kitchen



こども商店街
射的
ありがとう商店



ワークショップ
多様性の木を育てよう
The World Kitchen



ワークショップ
民族衣装体験



ワークショップ
ビタっとめよう！フルカーリング
岡山ダイハツ販売株式会社



こども商店街
シマレット(ボラの味噌煮)の缶詰販売
岡山中学校・岡山高等学校



こども商店街
おしろこ販売
ありあん



おかやまインクルーシブフェスティバル特別企画 「ユニバーサルツーリズム岡山ツアー」 (JTb × おかやまインクルーシブフェスティバル)

ハンディキャップアーティストとスポンサー企業の交流アートツアー。宇野に設置してあるアートで対話型鑑賞を行い、フェスティバルについての感想や振り返り、次回にむけての意見交換などを行った。



参加人数 アート部門応募者：8名 スポンサー企業：8名

ボランティアサポートチーム「はれぶ隊」

2月11日、「魔法の森のアワードパーティー」「人生相談天国」での来場者案内や見守り、舞台上での演出サポートなど、それぞれができる形でフェスティバルに関わった。

参加人数 22名



参加者の声

【参加理由】

- ・舞台やイベントに関わる経験をしてみたいという思いから参加。
- ・多様な人と関わり、新しい出会いや経験を得たいと考えたため。
- ・はれぶ隊の活動や舞台づくりに興味を持ち参加。

【感想】

- ・年齢や立場を越えて多くの人と関わることができ、楽しく充実した時間となった。
- ・初めての経験で緊張や不安もあったが、周囲のサポートにより安心して取り組むことができた。
- ・本番では観客の温かい反応や出演者の輝く姿に触れ、自身も楽しみながら参加することができた。

【発見したこと】

- ・舞台の裏側や準備過程を知ることで、物事の見方や捉え方が広がった。
- ・多様な背景を持つ人との関わりを通して、視野やつながりが広がった。
- ・出演者のいきいきとした姿や努力に触れ、支える側としてのやりがいや意義を感じた。

【今後の希望】

- ・今後もこのような活動に継続して関わりたい。
- ・次回は舞台出演など、新たな役割にも挑戦してみたい。
- ・より多くの人々が安心して参加できるよう、運営体制やサポートの充実を期待する。
- ・ボランティア同士や関係者がさらに関わりやすくなる仕組みづくりを望む。

年代	人数	内訳
10代	13名	中学生・高校生
20代	4名	大学生・社会人
30代	1名	ダンサー
40代	2名	会社員・教員
50代	2名	ダンサー・福祉事業所利用者
合計	22名	

台湾からのアーティスト

世界情勢が揺らぐ中、台湾のアーティスト12名が描く「幸せの魔法」を、岡山芸術創造劇場ハレノワで展示しました。

キュレーターの商毓芳さんは、「平和な気持ちで過ごし、変化を恐れないこと」こそが台湾の人々の幸福だと語りました。

本展では、東日本大震災後の復興に寄り添ってきた台湾と日本の芸術活動も紹介しました。

また、フェスティバル最終日2月15日(日)には、台湾の音楽家が来岡し、伝統楽器・琵琶の演奏を行いました。

芸術は奇跡を起こすものではなく、困難なときに寄り添い続ける力である——その切実な思いが、作品と音を通して静かに立ち上がりました。

特別展示 2月1日⑨～2月15日⑨（岡山芸術創造劇場3Fギャラリー）

演奏会 2月15日⑨13:00～14:30～（KOTYAE）



台湾からのアーティスト 特別展示



台湾伝統音楽「南管」琵琶演奏会

シンポジウム おやまインクルーシブフェスティバル2026で生まれたこと

おやまインクルーシブフェスティバル 2026 の最後のイベントとして、
あらためて今年のインクルーシブフェスティバルを振り返り、
今後を語り合うシンポジウムをおこなった。
当日は40名の方々が集まり、活発に議論した。

2026年3月12日（木）13:00～15:30
KOTYAE 参加費 無料
参加人数 40名



渡辺 弘
岡山芸術創造劇場
ハレノワ劇場長
兼プロデューサー

ハレノワは開館から二年半を迎え、公共劇場として地域とどのように関わり、街の人々とともに文化を育んでいくかを模索してきました。その中で、おやまインクルーシブフェスティバル実行委員会との出会いをきっかけに、多様な人々や表現が交わる新たな取り組みが生まれたと感じています。

中劇場の「魔法の森のアワードパーティー」では、ダンス、演劇、美術など多ジャンルのアーティストが集い、地域企業の協賛や市民の協力を得ながら、岡山の力が結集する場となりました。小劇場の菅原直樹氏による舞台「人生相談天国」は、観客の声に耳を傾けながら人生の悩みに向き合う舞台として、多くの共感と心に刺さるほどの感動を生み出しました。

劇場はしばしば「広場」に例えられますが、人々が自然に集い、共に時間を過ごす広場となるには積み重ねが必要です。本事業は、ハレノワが地域の皆さんに開かれた劇場として新たな一歩を踏み出した機会となりました。今後もこの経験を活かして、地域とともに歩む文化の場を育んでいきたいと考えています。



天川 栄人
小説家

今回のフェスティバルでは作文・創作物語部門の審査員として関わりました。表彰式では、受賞する小中学生がそれぞれの体調や気持ちに合わせて舞台上で過ごせるよう工夫されている様子を目にしました。そうした中で見られた、自由でのびのびとした姿が印象に残っています。「しあわせの魔法」というテーマのもと、心を打つような優しい作品が多く寄せられたことは大きな成果だったと感じています。一方で、小中学生らしい無邪気さや、子ども時代にしか思いつかないような発想に触れる機会が少なかったことにも思いが及びました。

今後は、子どもたちの創造性やオリジナリティに富んだアイデアをより引き出せるように、公募テーマのあり方についても引き続き考えていきたいです。



馬場 拓郎
おやまインクルーシブ
フェスティバル
実行委員長

本事業の目的とねらいについて、概ね達成できたと受け止めています。アート、作文、パフォーマンス、演劇、マルシェ、ユニバーサルツアー、街なかアート展示など複数の「晴れ舞台」を同時期に展開したことで、障害のある方、小中学生、大学生、一般市民、企業、文化芸術関係者、行政、地域住民など、多様な人々が同じ期間、同じ街の中で交差する状況を生み出すことができました。

一方で、「互いの違いや表現にふれ、認め合い、つながることでインクルーシブな地域社会を育む」という目的については、確かな手応えを感じつつも、関係がさらに深まる余地があると感じています。今後の課題は大きく二つあります。一つは情報発信です。多様な取り組みの価値や背景、企画同士のつながりを十分に伝えられたかという点では、改善の余地があります。もう一つは交流の設計です。多様な人が集う場は生まれましたが、立場や分野を越えた対話や関係づくりをどのように育てていくかが次のテーマです。

今年度、岡山の街なかで多様な人が交わる場を生み出し、「しあわせの魔法」というテーマのもと、その景色を多くの皆様と共有できたことは大きな成果でした。ご支援・ご協力・ご参加くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。



片山 進平
(協連)岡山市東町商店街
連盟 代表理事

フェスティバルのメイン事業日にイベントに参加し、多様な方々が同じ場に集い、それぞれのかたちで関わり合っている様子を目にしました。この催しの開催が決まって以来、「インクルーシブとは何か」という問いについて考え続けてきましたが、その中で多くのイメージが立ち上がり、あえて一つの明確な答えを定めないことにも意味があるのではないかと感じています。商店街としては、多くの人が訪れ、にぎわいが生まれる場であり続けることを願うとともに、このような取り組みに今後も寄り添い、協力していきたいです。

オープントーク ファシリテーター 吉川 幸 (岡山大学 公共知共創オフィス 准教授)

シンポジウムの締めくくりに開催されたオープントークでは、参加者がテーブルごとに集まり、フェスティバルを通じて感じたことや今後への期待を語り合いました。対話をしながら一人ひとりが付箋に自分の言葉で自由に意見を書き出しました。「みんなが主役になる」「一人ひとりが輝けるパフォーマンス」「経済的弱者が参加できるしくみを応援してほしい」など、感想や気づきから今後に向けた提案まで、多様な声が集まりました。



みんなの声 — オープントークで集まった言葉たち インクルーシブフェスティバルで生まれたもの、これからは届けたいこと

感想・気づき		インクルーシブ・表現について		広報・運営について	
盛りだくさんで忙しい	表現は生活	インクルーシブとは？ 表現とは？評価とは？ そこからみんなで考えることから始めてみたい。	障害者アートとしてくれることはどうなのか？	広報の方法・ タイミングの改善。 情報が届きづらかった	アワードの ショート動画をつくらせてSNSで発信
みんなが主役になる	一人ひとりが輝けるパフォーマンス	分からないことも巻き込んでいく。	技術かカオスか。	スタンプラリー+アンケートをセットにし、ノベルティをつける	作品集を作って配ってほしい
天才がたくさんでびっくり	全ステージと観客が一体になる！	大人の視点・マジョリティの視点からの脱却	特別支援に関わらず、教育の視点へ	パンフレットの 名前表記を改善してほしい	2日間にしてマルシェや商店街もまきこみ、お祭りのように
子どもがいつも通りの自分らしさでいられた	手話通訳の人の手が止まるほどの予想外の展開	日常のささやかな面白さ、日々のつづき、小さな表現が集まって大きなインクルーシブをつくりあげていきたい。	生活場面の名前のないアートな瞬間を追いかける事業を	中劇場×小劇場×マルシェ×etc...連携	経済的弱者が参加できるしくみを応援してほしい
会場にQRコードを置き、作品をSNSで発信してはどうか	1年間思い出せるしくみがほしい	国を越えて文化の交流、個性を認め合える場	思っていることを素直に言えて表現できる場づくり	支援学校×まちの学校のつながり	その人らしさ(個性)の引き出し方
賞をとらなかった作品も輝くように、舞台上立たない人たちも活躍できる場があるといい。	出演者の声や作品をもっと知りたい。	「交流」をもっとしたい。出演者と観客の交流したり、プロジェクトの交流をしたり。	言わなきゃわからないし相互に伝わらない	ワークショップも会場ハシゴでやってほしい	飲食する場所と休憩の場所がもっと必要
舞台・公演について		つながり・交流		今後に向けて	



特別講演

「あらゆる人が表現する」とはどのようなことか？
インクルーシブな芸術の場を考える

長津 結一郎

シンポジウム「おかやまインクルーシブフェスティバル2026で生まれたこと」



長津 結一郎（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授）

ながつゆういちろう／多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究や実践を行なっているほか、ワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュース、事業評価などにもかかわる。著書に『舞台の上の障害者 - 境界から生まれる表現』『アートマネジメントと社会包摂』など。アートミーツケア学会代表、日本文化政策学会理事、文化経済学会（日本）理事、日本アートマネジメント学会運営委員。文化庁・厚生労働省障害者文化芸術活動推進有識者会議構成員。

以前、ある場所で講演を依頼されたとき、主催者がつけてくれたタイトルが忘れられない。「みんなでつくる」って言うけど、だいたい誰かいない？」。少し挑発的で、でも、ものすごく本質的な問いだと感じる。近年、文化芸術の現場では、「だれもが」「みんなで」「あらゆる人が」といった言葉を耳にすることが増えた。実際、私自身もそうした言葉を使ってきたし、その方向性自体を否定したいわけではない。けれども、その言葉を口にするたびに、どうしても引っかかることがある。本当にそこに「みんな」はいるのだろうか。あるいは、その「みんな」という言葉の中に、最初から入っていない人はいないだろうか。

この違和感を考えるための手がかりのひとつが、「社会的排除 (social exclusion)」と「社会包摂 (social inclusion)」という考え方である。社会的排除とは、単に貧困や失業のような経済的な問題だけを指すものではない。教育、福祉、地域、文化など、社会のさまざまな場面から、特定の人に参加しにくくなっている状態を指す。逆に社会包摂とは、そうした排除の構造を見直し、社会への参加の回路をひらいていこうとする考え方である。

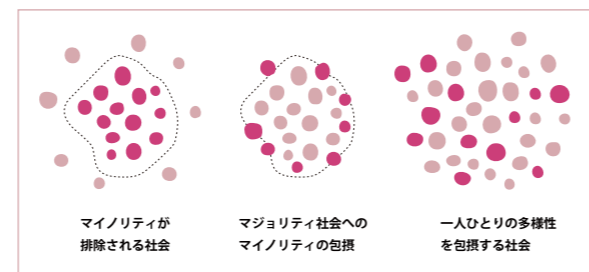
芸術文化においても社会包摂の考え方が導入されるようになってきた。2012年に施行された劇場法では、劇場や音楽堂

は、単に作品を上演する場所ではなく、人々が集い、出会い、学び合う「新しい広場」として位置づけられた。2017年の文化芸術基本法改正では、文化政策は文化の内部だけで完結するのではなく、福祉や教育、地域づくりなど他分野と連携しながら進められるべきものとして整理された。さらに2018年には、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が成立し、障害のある人の文化芸術活動を支えることが、政策としても明確に位置づけられるようになった。

文化芸術が、一部の人のものではなく、より広い人びとに開かれていくことは望ましい。けれども、そこで「開かれる」とはどのようなことなのかを、私たちはもう少し丁寧に考える必要があるように思う。そのことを考えるうえで、しばしば参照されるのが「障害者アート」という枠組みである。

たとえば、アール・ブリュット (Art Brut) という概念は、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエが提唱したもので、精神病院の患者や社会の周縁に置かれた人びとの創作に注目したところから始まっている。ただし、ここで大切なのは、アール・ブリュットがもともと「障害者の作品」だけを指す概念ではなかったという点である。むしろ、専門的な美術教育や既存の価値観の外側にある表現に、美術の可能性を見いだそうとした概念だった。

ところが日本では、2000年代以降、このアール・ブリュットの議論が福祉政策や障害者支援の文脈と強く結びつきながら広がっていった。その結果、「アール・ブリュット＝障害者アート」という理解が広く共有されるようになった。これは一方で、それまで十分に見えてこなかった表現に光を当てる契機になった。しかし他方で、「障害者の表現」としてわかりやすく回収できるものだけが注目され、それ以外の、もっと曖昧で、もっと日常的で、もっと名づけにくい表現が見えにくくなってしまいうるさもある。

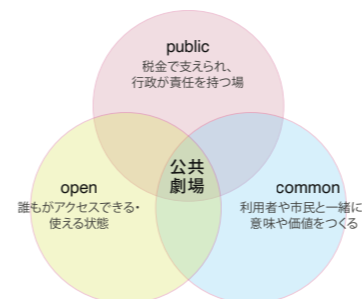


社会包摂をめぐる3つの社会のモデル (文化庁×九州大学共同研究チーム、2021)



私はここに、包摂の難しさがあると思っている。社会包摂というと、しばしば「みんなを仲間に入れること」のように語られる。けれども実際には、それほど単純ではない。排除に対抗しようとする、今度は「このやり方で参加できる人」だけが受け入れられる仕組みになってしまうことがある。つまり、包摂はしばしば同化を伴う。違いをそのまま認めようとすると場はまとまりにくくなり、逆にまとまりを優先すると違いは削ぎ落とされる。この矛盾は、簡単には解消できない。多様性と包摂性は、必ずしも素直に両立するわけではない。違いをそのまま尊重しようとすればするほど、ひとつの場としてのまとまりは揺らぎやすくなる。逆に、「みんなが参加できる場」をつくらうとすると、そこには見えない標準が生まれてしまう。

だからこそ、私は「公共性」という視点が重要だと考えている。齋藤純一は公共性を、official (公的なもの)、open (開かれたもの)、common (共通のもの) という三つの側面から整理している。芸術の場もまた、公的に支えられているだけでは足りないし、単に入口が開いているだけでも足りない。誰に向けて開かれているのか、そして何を「共にする」場なのか問われなければならない。



公共性の問題 (齋藤2000をもとに作成)
・公共性は official / open / common という三つの側面から整理できる

「あらゆる人が表現する社会」とは何なのだろうか。それは「誰もが同じ形で参加する社会」のことではなく、むしろ、多様な関わり方が共存できる文化の場をどうつくるか、という問いとして捉えたい。舞台に立つことだけが表現ではない。鑑賞すること、そこに居合わせることに、反応すること、うまく言葉にならないまま何かを受け取ること、あるいは日々の些細なやりとりを交わすこともまた、表現の一部かもしれない。ただ、そのときに何を「表現」と呼び、何を価値あるものとして認め、支え、あるいは表彰するのかという問いは残り続ける。だからこそ、「あらゆる人が表現する」という言葉を、そのまま美しい理想として掲げるだけでは足りない。その言葉からこぼれ落ちる人がいるかもしれないことを忘れてはいけない。

多様な関わり方が共存できる文化の場をどう設計していくかという、地味だが根本的な問いに、向き合い続けること。それこそが、インクルーシブな芸術の場を考えるうえで、いま本当に必要なことなのではないだろうか。

おかやまインクルーシブフェスティバル2026シンポジウム
「おかやまインクルーシブフェスティバル2026で生まれたこと」
ご覧ください>>



シンポジウム終了後、登壇者・スタッフ・参加者による集合写真

吉川 幸



吉川 幸 (岡山大学 公共知創オフィス 准教授)

よしかわみゆき / 株式会社ベネッセコーポレーション、岡山大学地域総合研究センターを経て2020年より現職。専門領域は地域連携型学習。社会教育士、認定ワークショップデザイナー、LEGO®SERIOUS PLAY® メソッドと教材活用トレーニング修了認定ファシリテータ等の知見も生かしながら、大学での実践型教育科目開発や高校の探究学習支援に取り組んでいる。著書「My SDGs 危機の時代を生きる『私』の問いを立てる授業」、監訳書「市民参画とサービス・ラーニング」他。京都府木津川市出身。博士(総合社会文化)。

新しいアイデアが生まれる過程には、「クリエイティブカオス(創造的混沌)」と呼ばれる段階があります。多様な考えや感情が一度に表出し、まだ整理されていない状態のことです。この段階を経て、言語化や構造化、再構成が行われることで、新たな価値や方向性が見えてきます。

おやまインクルーシブフェスティバル 2026 は、2月11日にハレノワで実施されたプログラムを中心に、共生社会の実現をめざす多様な実践や思いが集まる場となりました。参加者からは、「すべてを見たいのに見られない」「すべてに触れたいのに消化しきれない」といった感想も寄せられました。これは、多様な実践や価値観が同時に提示された

ことによる、まさにクリエイティブカオスの状態であったといえるでしょう。

このカオスを次の段階へと進めるために開催されたのが事後シンポジウムです。シンポジウムでは、フェスティバルで起きた出来事や参加者の感情、気づきを登壇者が言語化し、共有することで、経験の再構成が試みられました。なかでも「人生相談天国」出演者4名による発言は、上演から1か月を経てもなお新鮮であり、聴き手の記憶を揺さぶり起こす力がありました。

揺さぶられて誕生した新たなカオスをことばにして再構成する場が、オープントークでした。ここでは「フェスティバルで何が生まれたのか」という問いのもと、5つのテーブルに分かれて対話が行われました。参加者は、「なぜ自分がこの場に来ようと思ったのか」を含めて自己紹介したあと、それぞれの視点から付箋に考えを書き込み、言語化した内容を共有しました。グループとして意見を統合するのではなく、参加者一人ひとりの感性や気づきを尊重する形で表現された付箋は、さまざまな紙の色やペンの色が並ぶように、多様な視点が可視化された成果物となっていました。

こうした言語化と共有のプロセスを経て整理されたアイデアから、おやまインクルーシブフェスティバル 2027 のテーマ「たねをまく」が生まれました。2027年に向けて、ここで生まれたアイデアがさらに具体化され、新たな実践として展開されていくことが期待されます。たねをまく人は、この社会を共に生きる一人ひとりです。

今回のフェスティバルの総括とこれから

顧問 梶谷 俊介

(岡山トヨタ自動車株式会社代表取締役社長)



今回のフェスティバルの話をもっと聞いていたときには、本当に実行できるのかなと思ったのが正直なところでした。実行委員の皆様が、ありがたい姿から妥協することなく実現されたことに感銘を受けました。熱い志が多くの人を魔法にかけて共感を増幅し、ことが動くことを実感しました。また、インクルーシブというテーマに多くの方が協力することに岡山の素晴らしさを感じます。特別支援学校での事前のワークショップに始まり、「幸せの魔法」を共通テーマとして様々なプログラムが複層的に実施されました。約2週間にわたってインクルーシブについて考える機会をまちなかにつくったことは訪れる人にインパクトを与えたと思います。今回得られた気づきや出会いをより多くの人に実感してもらうために、共に活動する機会を増やしていくことが大切だと感じました。多様な人々がそれぞれの持ち味を生かして、助け合いながら共に暮らす社会をつくってまいりましょう。

参加人数

事業名	人数	備考	
2月1日～2月15日 はればれステージ (350人)	NOLTYスコラ「わたしのスマホカバーコンテスト」 岡山理科大学留学生別科「わたしたちの母国と日本での歩み」 映画「ノルマル17歳。ーわたしはADHDー」 ありがとうファームメンバー会「新春A-1グランプリ2026」 舞踏公演「プレリユードー春の祭典と名付け得ぬものために」 劇団アラホシ演劇公演「昔の子どもたち」 北村成美体験型ダンスパフォーマンス「しげとニコット」 春風亭昇吉・土肥ヨシ「ユニバーサル落語」 台湾アーティスト琵琶演奏	50 50 50 70 15 15 30 50 20	
2月11日 岡山芸術創造劇場ハレノワ (1,829人)	ハレノワ中劇場「魔法の森のアワードパーティー」 ハレノワ小劇場「人生相談天国」 マルシェ「The World Kitchen×こども商店街」(ワークショップ) マルシェ「The World Kitchen×こども商店街」(飲食)	530 300 350 400	
ブレ企画 (751人)	出演者 裏方スタッフ はればれ隊	177 50 22	「魔法の森のアワードパーティー」、「人生相談天国」、各アワード審査員含む。 「魔法の森のアワードパーティー」、「人生相談天国」 「魔法の森のアワードパーティー」、「人生相談天国」
パートナー企業	支援校タベストーリー参加人数 アート部門エントリー数 創作作文物語部門エントリー数 パフォーマンス部門エントリー数 企業数	537 163 33 18 34	
小計①		2,964	
アート展示等	街なかアートギャラリー鑑賞者数(推計) 桃太郎大通りフラッグ鑑賞者数(推計) 表町商店街タベストーリー鑑賞者数(推計)	4,000 150,000 110,000	デジタルスタンプラリー149人参加(※参加率3~5%として3,000人~5,000人) 1月19日~2月15日:延べ約10万人~25万人(中心:約15万人) 2月1日~2月15日:延べ約9万人~14万人(中心:約11万人)
小計②		264,000	
合計(小計①+②)		266,964	

広報活動



キービジュアル 作品・出演者・募集フライヤー 舞台 人生相談天国フライヤー 魔法の森のアワードパーティーフライヤー

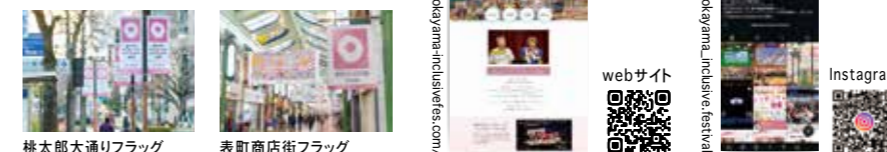


アート部門 作品募集フライヤー 作文・創作部門 作品募集フライヤー パフォーマンス部門 エントリー開始フライヤー 人生相談天国 出演者募集フライヤー



当日プログラムパンフレット

街の様子



桃太郎大通りフラッグ 表町商店街フラッグ webサイト Instagram

新聞・中吊り広告
2026年1月7日 産経新聞 中国・四国版
2026年2月5日~13日 JR西日本中吊り広告

新聞等記事掲載
2026年1月18日 山陽新聞
「岡山市中心部でインクルーシブフェスティバルアート展示や演劇披露 2月1~15日」

2026年2月4日 山陽新聞
「即興で紡ぐストーリー 岡山で「人生相談天国」上演 出演の市民ら24人、11日の本番に向け稽古に熱」

2026年2月7日 山陽新聞
「障害者らの絵画作品街なかな彩る岡山、玉野の商店街や商業施設」

2026年2月11日 山陽新聞
「岡山支援学校生の音楽バンドが最優秀賞「魔法の森のアワードパーティー」公募の表現活動表彰」

2026年2月13日 読売新聞
「アートや演劇垣根なく岡山中心にフェスティバル会期延長 作品展示」

2026年1月号
岡山東支援学校地域連携通信「つなぐ」

おかやまインクルーシブフェスティバル 2026

【主催】 おかやまインクルーシブフェスティバル実行委員会 公益財団法人岡山文化芸術創造

【共催】 岡山市 【特別協賛】 蜂谷工業株式会社

【後援】 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会 協同組合連合会岡山市表町商店街連盟 一般社団法人岡山経済同友会
山陽新聞社 RSK山陽放送 OHK岡山放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 KSB瀬戸内海放送

【協賛】



【おかやまインクルーシブフェスティバル実行委員会】

委員長 馬場拓郎 株式会社ありがとうファーム取締役副社長

副委員長 深谷千草 株式会社ありがとうファーム執行役員・アートディレクター・美術家

実行委員 田賀朋子 jamtun 代表

実行委員 吉川幸 岡山大学 公共知共創オフィス 准教授

実行委員 河津泉 NPO法人チャリティーサンタ理事

顧問 梶谷俊介 岡山トヨタ自動車株式会社代表取締役社長

事務局 株式会社ありがとうファーム 岡山市北区表町3-7-5

事務局長 木庭康輔 株式会社ありがとうファーム代表取締役

副事務局長 荒谷桃子 株式会社ありがとうファーム執行役員・パートナーシップ推進室



公式サイト

<https://okayama-inclusivefes.com>



instagram

@okayama_inclusive.festival

